

V122a SKA プロジェクトへの参加計画 2

小林秀行, 赤堀卓也, 河野裕介, 廣田朋也, 小山友明, 寺家孝明, 砂田知良, 永山匠, 亀谷收, 本間希樹 (国立天文台水沢 VLBI 観測所)

本講演では、SKA 計画の進捗と日本の参加計画の検討の進捗状況について報告する。SKA1 計画は、昨年 12 月に行われた System CDR の残項目も 3 月に完了し、建設計画の最終的な策定に進んでいる。SKA 観測所は、新型コロナウイルスの影響を受けて約半年ほどの遅延はあるが、国際機関として今年中に発足できる見込みである。それに対応し、SKA 観測所の意思決定組織としての SKA Observatory Council の設立準備が進んでおり、そこに建設提案書が提案され、承認後 2021 年から建設が開始される予定である。日本においては、日本の参加計画は学術会議マスタープラン 2020 において学術大型研究計画 (区分 1) として選定され、さらに文部科学省のロードマップ 2020 に名古屋大学から応募している。国立天文台においては、2019 年から 3 年間の計画で SKA1 検討グループが水沢 VLBI 観測所の下に設置され、日本の参加計画を具体化している。主にシステム統合、科学性能評価 (AIV/SV) とデータアーカイブ、データ解析を行う Science Regional Center に対する貢献を柱に VLBI や 15GHz 以上の高周波広帯域受信システムの開発についても検討を進めている。2020 年度は、具体的に in-kind での参加を開始する予定である。また日本のユーザーコミュニティである SKA-JP の協同関係についても述べる。